

# 第4学年「総合的な学習の時間」学習指導案

単元名「共に生きる～〇〇のだれにでも優しい町をめざして～」

## 1. こんな子どもだから

- 1学期にゴミについて課題を持ち問題解決に取り組んできた。GTの方の話で、困っていることやよりよくしてほしいことは、交流活動を通して考えることができるようになってきている。しかし、その人との出会いから、その人の立場になって考えることについては、十分とはいえない。
- 国語の単元「手と心で読む」を通して視覚障がいを持った人の気持ちを考え、点字が視覚障がいの人のコミュニケーションの方法として利用されていることについては学習している。しかし、そのほかにどんなコミュニケーションの手段があるのか知らない子が多い。
- 本校は、「〇〇〇〇学級」（特別支援学級）があり、本学年も2名親学級として音楽や体育で交流をしている。子どもたちは、その2名には、優しい言葉をかけたり、一緒に活動したりすることができ、交流することを楽しみにしている。しかし、自分たちがお世話をしているという意識があり、注意をためらったり、グルーピングでも自分達本位で作ってしまうなど、障がいについての正しい見方ができていない面がある。また、実際に社会にはたくさんの障がいをもった人たちがいることは知っているが、互いに理解し合い、支え合って生きていることには気付いていない。

## 2. こんな教材で

- 障がいのある人と出会い、お年寄りのハンディーキャップも含めた障がいを通して、自分たちがだれにでも優しい〇〇の町にするために何ができるか考え、実践する態度を育てることは、次の点から価値があると考えられる。
  - ・ 既習の学習や体験的な活動を取り入れることで、追究したいという意欲を持たせることができる。
  - ・ 障がいのある人やお年寄りに出会うことで、実際の生活で困っていることや周りの人にしてほしいことなどその思いを聞くことができる。
  - ・ 疑似体験を通して、自分たちが考えた以上に苦労があることに気づき、その視点に立って社会にある様々な問題を自分の問題としてとらえることができる。
  - ・ 自分たちで校区内にあるいろいろな施設を探検して、自分たちだけでなく、障がいのある人やお年寄りにとっても使いやすい設備があり、それをより利用しやすくするよう自分たちができることを考えることができる。

## 3. こんな子どもの姿をめざしたい

- 障がいのある人との出会いや体験を通して課題を見つけ、解決の見通しを持って、自分なりの方法で意欲的に追究することができる。 【課題設定・問題解決の能力】
- 体験したことや調べたことをもとに、互いに関連させながら話し合い、障がいのある人やお年寄りの立場に立って考え、行動することができる。 【主体的・創造的な態度】
- 障がいのある人やお年寄りと触れ合う活動や調べ活動を通し、ものの見方や考え方を深めることができる。 【学び方やものの考え方】
- 障がいのある人やお年寄りだけでなく、自分たちの住む〇〇の町は、だれにでも優しい住みよい町かを考え、社会の一員として自分を自覚し、自分の成長に気づくことができる。 【自己の生き方】

#### 4. そのためにこんな方法で

- 障がいのある人や地域で福祉活動をしている人の話を聞いて、自分たちの住んでいる〇〇の町はいろいろな立場の人たちにとって本当に優しい町なのか疑問を出し、調べてみたいという意欲を高めるようにする。
- 自分たちの課題解決のためのよりよい方法を考えさせ、全体の学習計画を作ることと、見通しを持って活動に取り組むことができるようにする。
- ゲストティーチャーとして福祉活動をしている方を招いて、その方の日頃の活動を聞いたり、自分たちで直接車いすやアイマスク体験をしたりして、追究の視点を広げることができるようにする。
- 追究活動の途中で交流会を開き、友達との意見交換をし、自分の考えを確かにしたり、友達の考えの良さを気付くことができるようにする。
- 国語「手と心で読む」や道徳の学習を通して、障がいを持っている人の日常生活にいろいろな苦勞をしていることを感じ取らせながら、同情やマイナスのイメージで終わることのないようその人達の生き方について考えることができるようにする。
- ポートフォリオを使って、自分の振り返りや教師の助言をもとに、課題追究の意識を持続させ、自分の成長に気付くことができるようにする。

#### 5. 活動計画(全28時間)

段階	主な学習活動	教師の指導・支援と留意点(※評価)
つかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     いろいろな障がいについて知ろう。                 </div>	5 時間
	1. 障がいには、様々なものがあるが、その障がいとは、どんなことなのか現時点の考えを出し合う。 ① (1) 自分たちが知っている障がいとはどんな障がいか出し合う。 ・目の不自由な人 ・耳の不自由な人 ・手や足が不自由な人 (2) 障がいをもつことはどんなことなのかイメージを書く。 2. 障がいのある人のためにボランティアをしている人を招き、どのように障がいのある人に関わっているのかを聞	○ 国語の学習をもとに、どんな障がいがあるのか想起させ、その障がいのもつイメージを自分の言葉で考えさせる。 ○ 校区には、いろいろな人が住んでいて、その中には体の不自由な人やお年寄りがいることを意識させ、その人達の立場になって学習を進めていくことを知らせる。 ※ 校区内に住んでいるいろいろな人の立場について思いを書いたり、発表したりすることができる。 ○ 自分が障がいについてイメージしていることをそのまま出させる。 ○ 事前にボランティアをしている人に話をしていただく内容について打ち合わせしておく。

	<p>き、問題意識を持つ。 ①</p> <p>3. 社会福祉協議会の方からボランティア活動の内容を聞いて、実際に疑似体験をする。 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイマスク体験</li> <li>・ 車いす体験</li> </ul> <p>4. 体験したことをもとに、気付いたことや考えたことを話し合う。 ①</p>	<p>※ 校区内にあるボランティア施設で働いている人がどんな思いを持って活動しているのか話を聞き、今までの自分の障がいのイメージと比べたり、考えたりすることができる。</p> <p>○ 社会福祉協議会の方から、仕事内容や介護をすることについて気をつけていることを話していただいて、仕事をしていく上で生き甲斐と感ずることを伝えてもらう。</p> <p>○ 日常に近い場面で学習ができるように公園や歩道などで安全に留意しながら体験をさせる。</p> <p>※ アイマスクや車いすの体験活動を進んで取り組むことができる。</p> <p>○ 体験したことでもっと障がいについて調べたいと思うことや、疑問に思ったことを出させる。</p> <p>○ 体験前と体験後の意識のずれを感じ取らせる。</p>
	<p>だれにでも優しい町とは何かを調べよう。 7時間</p>	
<p>追 究 す る</p>	<p>1. 疑似体験や交流活動をもとに、自分の課題を作る。</p> <p>(1) 調べる内容を出し合う。 ①</p> <p>(2) 自分の課題を決める。 ①</p> <p>(3) 自分の課題を解決するための計画を立てる。 ①</p> <p>2. 自分の課題解決のために追究活動をし、まとめる。 ③</p> <p>3. 自分が調べたことや考えたことについてまとめ、交流会をする。 ①</p>	<p>○ どの障がいの立場で、どんなことを調べたいの焦点化する。</p> <p>○ すぐに解決できるものやふさわしくないものは、課題としてふさわしくないことを示す。</p> <p>※ 自分の課題とその設定理由まで書くことができる。</p> <p>○ どの方法で調べ、どのようにまとめていくのか見通しを持たせる。</p> <p>○ 子どもと対話をし、課題の見直しをさせる。</p> <p>※ 自分なりの追究方法で活動を進めることができる。</p> <p>※ 自分が調べたことををみんなにわかりやすく発表することができる。</p>
<p>本 時</p>	<p>○○校区では、だれにでも優しい町づくりをしているのか考えよう。 9時間</p>	
<p>1. 自分たちが調べたことをもとに、城南校区が、障がいのある人やお年寄りに優しい町なのか調べ、優しい町作りへ向けての計画を立てる。</p> <p>(1) 調べてきたことをもとに○○の町のよさと問題点について出し合</p>	<p>○ 活動方法や内容について計画を立てさせる。</p> <p>※ 今まで調べてきたことをいかしながら進んで話し合いをすることができ</p>	

<p>い優しい町作りについて考える。①</p> <p>(2) ○○校区を調べるための計画を立てる。①</p> <p>2. 調べたいことを調べ地図に書き込んだり、わかったことをまとめる。</p> <p>(1) 校内のだれにでも優しい施設について調べ、わかったことを地図に書く。①</p> <p>(2) 校区にあるいろいろな施設に行き調査し、わかったことをまとめる。②</p> <p>(3) 校区に住んでいる手話ダンスのボランティア活動をしている人を招いて、話を聞く。②</p> <p>(4) 自分ができる優しい町作り計画を立てて実践する。②</p>	<p>る。</p> <p>※ 自分なりの追究方法で調べることができる。</p> <p>○ 集めた情報をもとに、よさや問題点についてを整理しながらまとめさせる。</p> <p>○ ボランティア活動をしている人については、事前に内容については打ち合わせしておく。</p>
<p>○○の優しい町づくりのため自分たちにできることを考えよう。 6 時間</p>	
<p>広げる</p> <p>1. 調べたことをもとに、自分たちの校区を見直し、考えたことについてまとめる。</p> <p>(1) 自分たちの校区で自分たちが実践したことを発表し、さらにその考えを広げる計画を立てる。①</p> <p>(2) たくさんの人に考えを伝えるための準備をする。③</p> <p>(3) 自分たちが学習したことを発表する。①</p> <p>2. 学習してきたことを自分の生活と結びつけ、自分を振り返り、自分の成長に気づく。①</p>	<p>○ 伝えたい内容を自分に合う表現方法で伝えることができるよういくつか例を提示する。</p> <p>※ 自分なりの表現方法で伝えたいことを表すことができる。</p> <p>※ 話し合いを通して、自分たちの校区が誰にでも優しい町づくりに向けて、校内や校区の人に考えを広げたり深めたりすることができる</p> <p>○ 自分の生活と結びつけて考えることができるように、ポートフォリオを振り返りながら自分のこれまでの生き方を考えるようにさせる。</p> <p>※ 自分の成長に気付くことができる。</p>

## 6. 本時指導案

本時 「共に生きる」 12 / 28  
平成21年10月19日(月) 5校時

### (1) 本時目標

- 自分たちの住んでいる○○校区がだれにでも優しい町なのか今まで調べたことを振り返りながら、福祉の視点で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして意欲的に活動することができる。
- 自分がこれから優しい町づくりのためにしたいことを見つけることができる。

## (2) 本時の考え方

子どもたちは、前時までに次のような体験を取り入れてきた。

①校区にある障がい者の作業所の方を招いて、働いている人の話やその人たちに関わっている人がどんな気持ちで働いているのかを聞く。②目や体が不自由な人の立場になって学校の周りをアイマスクをして歩いたり車いすに乗ってまわったりする。③障がいのある人たちが生活していくために、どのような道具や施設や設備があるのか福岡市福祉プラザを見学する。④視覚障がいの人に日頃の生活について直接話を聞いたり障がいがある人たちが困っていることを尋ねたりする。

そして、これらの体験を通して、障がいのある人への接し方も考えてきている。

そこで、本時は自分たちの校区が障がいを持った人たちに優しい町なのかどうか今の考えを出し合うことから始める。自分たちが調べてきた道具や施設が〇〇校区にどのくらいあるのか校区地図に印をつけたり、前回の見学の発表を想起させたりすることでこの町の福祉に関する「もの」についてのよさや問題点について全体で交流させる。

そのあと、「もの」つまり施設や道具などが整うことだけで障がいのある人やそのほかの人たちに優しいのかをポートフォリオを見ながら、「ひと」の関わり方が必要になってくるということに目を向けさせたい。

全体での交流の最後には、自分たちが優しい町作りのためにできそうなことを出し合い、その話し合いの後、自分ができることについて考えさせていきたい。

次時では、自分たちで実際に校区を見学するための視点や計画作りをすることを伝え、意欲の持続をはかりたい。

## (3) 用意するもの

〔児童〕学習ファイル 校区マップ  
〔教師〕校区マップ（拡大） 福祉に関する写真

## (4) 板書計画

共に生きる～〇〇の誰にでもやさしい町をめざして～		
めあて 〇〇校区が、だれにでも優しい町なのかよさや問題点について話し合おう。	障がいのある人にとって優しいもの (写真)	
	<input type="checkbox"/> 点字ブロック	<input type="checkbox"/> スロープ
		<input type="checkbox"/> 自動販売機
(〇〇校区のよさ) 公民館・・・スロープがある 歩道・・・点字ブロックがある 地下鉄の駅・・・声の出る案内がある。 券売機に点字がある。	〇〇校区のマップ	(自分たちにできること) ・困っている人がいたら声をかける。 ・点字ブロックに自転車を置かない。 ・目が不自由な人がいたら、一緒に歩いたり、危険なことを教える。
(問題点) 道路・・・段差がある トイレ・・・みんなが使えるトイレが少ない。		↓ 自分たちができることを見つけて優しい町作りプランを立てよう。

(5) 本時展開

学習活動と内容	教師の支援・留意点	評価
<p>1. 前時の学習内容を振り返り、めあてをつかむ。</p> <p>めあて  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○○校区は、だれにでも優しい町なのかよさや問題点について話し合おう。</span></p> <p>2. ○○校区の地図を使って、○○校区がだれにでも優しい町なのかについて話し合う。</p> <p>(1) 全体で優しい町なのか意見を出す。          やさしい・・・わけは点字ブロックがある。          音の出る信号機がある。          問題がある・・・施設が少ない。</p> <p>(2) 校区にどのくらい福祉に関する施設や道具があるのか出し合う。</p> <p>(3) 「もの」だけが整うことが優しさにつながるのか考える。</p> <p>3. 自分たちが優しい町づくりのためにできることを考える。</p> <p>4. 次時の活動を知る。</p>	<p>○前時までに、障がい福祉施設で学んだことやわかったことを自分たちの作った表現物を見ながら想起させる。</p> <p>○それぞれの意見で根拠が言えるように写真を示したり地図を活用させながら交流させる。</p> <p>○校区マップにシールを貼りながら、どのくらい施設があるのか視覚的にとらえさせる。</p> <p>○○○校区の中でも公共施設や店などたくさんの人が利用するところを中心に考えさせる。</p> <p>○今までのポートフォリオを見ながら、どんなことができるか振り返らせる。</p> <p>○自分たちが優しい町づくりのためにできることを見つけていくことを伝える。</p>	<p>※前時までの振り返りができたか。</p> <p>※自分の意見をグループの中で進んで発表することができたか。</p> <p>※○○校区について自分ができること・したいことを見つけることができたか。</p>